

## あとがき

当法人は、昭和44年に大阪府により設置されました。以来、大阪府の先駆的事業の多くを受託し、大阪府の知的障がい児者福祉を増進することを、自らの使命と考え運営してまいりました。この紀要も、さまざまな実践で学んだことを発信すべく既に20号を発刊してまいりました。

大規模入所施設の大阪府立金剛コロニーは、知的障がい者福祉が地域福祉中心に見直される中で大きくあり方が見直されてきています。また、民営化の方針も大阪府から示されています。このような中、当法人は、事業団改革中期計画（案）を作成しました。大阪府の指定出資法人の解除を行い法人の民営化を行うと共に、金剛コロニーの利用者が安心して地域生活へ移行できるように、地域生活支援が安定して行える日中支援や短期入所事業を行う地域生活支援の拠点施設とケアホーム等の整備に計画的に取り組むこととしています。

当法人はグループホームが制度化される以前から、地域移行支援や地域生活訓練に取り組んできましたが、特に平成17年度以降は、大阪府や堺市の地域移行支援センター事業の受託等をし、約200人の利用者が地域生活を始めることができました。また、関係市の相談支援事業も積極的に受託し、地域生活支援に不可欠な支援のネットワークの構築にも取り組んできました。

そこで、今回の紀要を、地域生活支援の実態を把握し、より安心して地域生活が継続できるよう、また今後の地域移行のあり方を検証するために取り組んでいる「地域生活移行利用者実態調査」と、「地域ケアシステム」についての論文といたしました。

一方、大規模施設の縮小を図りますが、地域移行された利用者が医療ケアや高齢等のために戻って来られる利用者もいらっしゃいますし、地域生活がさまざまな理由で現状では困難な利用者もいらっしゃいます。これらのニーズに応えるためのセイフティネットとしての機能も求められています。特に重症心身障害児施設すくよかや、特別養護老人ホームかんなびのさと、金剛コロニーの児童施設や縮小した更生施設では専門機能が求められています。そこで、新たなスタッフの多い重症心身障害児施設すくよかで取り組んでいる「摂食・嚥下に対するスタッフの意識調査」を、今回の紀要のもうひとつのテーマといたしました。

法人のあり方が大きく変わっていきませんが、今後も法人の理念「ともに生きるこころを育み ともに歩む社会の実現」のもと、障がい者福祉に寄与できる法人でありたいと願っています。多くのご講評をいただき、今後もより研鑽に努めたいと思います。よろしく申し上げます。

研修企画委員長 久保田全孝